

チャレンジ講座（文系第8回）を実施しました

2月6日（水）に第8回文系チャレンジ講座が、本学経済学部の宇野真人先生を講師に迎え、「消費者行動とバンダイの企業戦略とガンプラ（ガンダムのプラモデル）の技術革新」というテーマで行われました。

遠隔配信された臼杵、中津南、竹田と来学の大分南、大分東明、楊志館の計6校98名が受講しました。

先生は、ガンプラ（ガンダムのプラモデル）の価格変化から見える企業戦略と技術革新の関係について経済学的観点から解説をしてくださいました。

ガンダムのプラモデルを複数、提示しながら、講義は始まりました。そのガンプラは、指などの細かい部分も動く精巧なもので、



初期モデルに比べて、高い価格が設定されているそうです。その理由を一緒に考えようと投げかけました。

次に、リラックマのぬいぐるみの特徴・機能を示しながら、「いくらで買うか」と問いかけ、その返答から需要曲線を描き、価格を決定するシステムがどのようなものかという、解説がありました。価格上昇と需要の変化が価格決定の鍵のようです。

ガンプラの価格上昇は、ユーザーの年齢上昇に伴う娯楽費の上昇が大きく関係しており、娯楽費が上昇することで、高くてもより良いものを求めるユーザーのニーズを受けて、より利益が上がりやすい価格設定を行い、得られた利益は商品の開発費に充てる。それによって技術革新が促され、消費者にとってさらに魅力的な商品を生む、という循環が、バンダイのシェアの維持・拡大につながっているということでした。

ガンプラの歴史をベースに、基本的な経済の仕組みをわかりやすく解説してもらい、身近なものが研究材料になるという面白さを知って、生徒の大学や学問研究に対する理解の深まりを感じることができました。



講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（87%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（98%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（97%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（88%）、「映像はよく見えた」（61%）という結果が出ました。